

学校図書が無断持ち出しされるのを防ぐマークのデザインと運用

大阪国際高等学校 コンピューター部 KKS N 草ノ瀬順太 三箇利宜 家間望 長村優一

はじめに

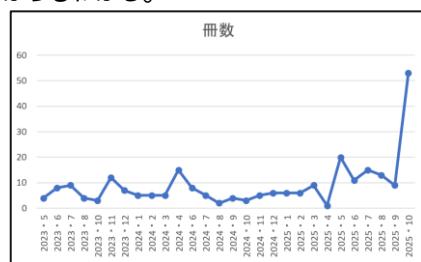
私達の学校は、廊下一面に本を置くという斬新な設計の学校である。そのため、日ごろから本を容易に読める環境が整っている。本を借りるために貸出手続きを必要がある。だが、簡単に本を取れるという側面により、貸出操作等をせず無断で持ち出された行方不明の本が253冊あるのが現状だ。

1階	2階	3階	4階
16	79	79	79

現状

これまで、図書委員や司書教諭の方たちが校内放送での呼びかけやポスター掲示を行い、生徒たちに本の無断持ち出しをやめるよう呼び掛けた。しかし、校内放送は頻度が少なく、ポスターも校舎の広さに対して掲示枚数が少なかったため効果はほとんどなかった。

それどころか、本がないと集会等で呼びかけられたその翌月やにはこれまでにないほど多くの本がなくなっていることが、下のグラフからもわかる。



図書委員や我が校の図書館にご協力いただいている、司書の方たちのできる対策はほとんど行ったが、行方不明となる本はまだ減ることはなかった。そこで私たちはこれまでにないやり方でこの本が行方不明になる問題を解決させる必要があった。また、わが校の校則やルールなどに適合し、多くの先生に許可をいただけるようなものを作成する必要があります。

方針

方針①:コストを1万円以下とする。

方針②:実験はだれでもわかるような簡単なものとする

方針③:我が校の風土や建物を傷つけないものにする。

ポスターを床に貼り、歩いているときや本を取るときにより目につきやすいようにすることとした。日常の中にある案内板のなか、人の目を惹くもので、多くの人が目にし、それに従う案内板として「駅の足元表示」に着目した。

また、そのポスターの文なども日常生活の中からよいものを探し、電車のダジャレ広告に着目。ダジャレにより、ヒトの目を惹き、印象に非常に残るものを作った。

また、普通のポスター作りも並行して行った。

作成した掲示物

我々は先ほどの考えをもとに、ポスターをデザインした。



なお、設置場所は以下のことを考えながら設置した。

条件①:コストの関係により枚数を多く使わないこと。

条件②:過度な量の看板は効果減の可能性があるため枚数は適正な量までにする。

条件③:ポスターことで貼ったことで安全性を損なわない。

例:階段の近くなどに貼ることは怪我につながる

防火扉や避難用の扉の付近は消防法により貼ってはならない。

適正な量などはこれまでの前例がないため、私達や司書、先生などの力をかりつつ、安全性、視認性、コストを加味しつつ、ポスターを貼ることにした。

今後の予定

以上のこと踏まえ、実験として、ポスターを学校に貼った。ポスターを貼るうえで先生等の指導を仰ぎ、安全性を非常に重視しつつ実験をおこなえる環境を整えた。

詳しいデータなどは発表する機会があれば、詳しく報告する。

おわりに

このグラフからは、階層ごとの行方不明となった本の冊数がわかる。各階によって、本の合計冊数は異なるため単純比較はできないが、教室のある2階、3階、4階の冊数が多いためこのデータも参考にする。今後の行方不明となる本の数のデータなどから、ポスターを配置する場所を工夫すること、教室に専用のポスター等を掲示すること、ポスターの文面や種類などさまざまな項目を工夫することを行い、加えて貸出処理をしているが返却を延滞している人への啓発等を行い、「校舎まるごと、図書館」という私たちの学校の特徴を生かせるような努力をこれからも続けてまいります。

謝辞

この研究のためにデータ等を提供してくださった司書の皆さんやサポートをしてくださった顧問の先生方に感謝申し上げます。